

小平市立小平第三中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

この調査は全国の公立小学校6年生及び公立中学校3年生の学習状況を把握・分析し、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- 主として「知識」の力を見る国語A、数学A

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技術などが中心の問題です。

- 主として「活用」の力を見る国語B、数学B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容が中心の問題です。

- 主として「知識」と「活用」の力を併せて見る理科

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

国語Aの正答率は全国平均より1.9ポイント高く、特に古典と、行書の書き方、適切な文を書くことに関する正答率が高かった。

国語Bについては全国平均より、1.8ポイント高く、特に話の展開に注意して聞き、質問を考える問題の正答率が高かった。

国語Aでは、話し合いでのメモを取るものの正答率が低かったため、課題があり、メモの取り方を確認し、定着させる必要がある。国語Bでは相手の反応を踏まえて話を進めることや、相手に伝わるように話のあらすじを書く問題の正答率が低かったため課題があった。相手の反応の反応を意識した表現ができるようにする必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

作文や話す時に、相手をはっきり想定して、書いたり話したりするよう、意識させる。また、相手に応じた表現を心がけるよう指導する。話し言葉と書き言葉で違う点も意識させる。個人で考える時間を取った上で、話し合いの時間をとり、相手を意識しているかの確認をお互いにさせる。メモの取り方については、復習して確認する時間もち、練習の時間もとる。振り返りの時間を確保し、指導事項の定着を図りたい。

【数学】

状況の分析

課題

数学Aの正答率は全国平均より1.9ポイント、東京都より1ポイント高かったが、数と式の領域のみ全国・都の平均を下回った。数学Bでは全国より2.1ポイント高いものの都の平均に等しく、数と式、資料の活用の領域で全国・都の平均を下回った。

知識理解の定着が十分でないため、活用の力も伸びない。特に数と式では指数計算、数や式の性質、不等号等の記号や用語の理を定着させ、文章中から数量の関係を理解したり、問題文の内容を正しくつかむことができるようにする必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

四則混合の計算は定期考査や小テストで日常的に出題し計算に慣れる機会を設ける。知識理解の定着が図りにくい用語や記号は、系統性のある単元で意識的に数学用語や記号を多用した指導を行う。また生徒にも正しい数学用語を使って答えさせる。長文から要点をつかむことができるように教科書以外の副教材等を利用して様々な課題に触れさせ、活用の力を伸ばす。教科書の内容のうち、じっくり説明できなかった部分の正答率が低いので、絶対値・不等号・公式の仕組み等を扱う時は、とくにノートに公式の意味や用語の意味が書き残るように強調して、振り返りの学習に生かせるように留意して指導する。

【理科】

状況の分析

理科の正答率は全国平均より 0.2 ポイント低かった。特に観点③が全国平均と比べ 3.3 ポイント下回っていた。また、観点④に関しては全国平均と比べ 1.9 ポイント下回っていた。他の観点については全国平均と同程度か上回っていた。

課題

理科では観察・実験を中心とした授業を展開してきたが、実験の目的や手順についての内容が身につけていない結果であった。今後、実験の手順や方法などについて一層できるよう、指導することが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

観察・実験の準備段階からポイントを絞り、授業内で実験の目的や実験の手順をしっかりと生徒に伝えるよう心がけていく。また、観察・実験の考察については、これまで授業の進め方で十分な成果が出ているので継続して行っていく。個別の問題では抵抗の計算の正答率が低かったため、その他の計算問題も含め、授業内で計算問題を行う時間を多く設けていき、さまざまな計算問題に対応できるようにしていく。

【質問紙】

状況の分析

「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」に対して、「している」と答えた生徒は、全国、都の両方の平均を約 15% 上回っている。

塾に通う生徒は、全国平均より 18.7% 上回っており、通塾率が非常に高い。しかし、定期考査において、教科別得点分布グラフを見ると学力差は二極化している。

課題

「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して、「1時間以上」と答えた生徒は 71.3% で、全国平均と比べて 0.7% 上回っていることに留まっている。

家庭学習の定着・充実を、小・中連携の視点で一層推進する。予習・復習の仕方を授業との係わりの中で継続して指導する。

学校等で取り組む具体的な改善策

本校の本年度の研究主題は、『夢や希望をもち、生き生きと学ぶ生徒の育成』—主体的に考え、議論する学びをとおして—である。本調査において「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、「そう思う」と回答した本校生徒の割合は、H27 49.4%、H28 44.6%、H29 37.4%、と年々低下してきていた。本年度は 43.6% と前年度に比べて上回っているものの、さらに向上を図るために、主体的な学びを各教科学習やあらゆる生活場面において働きかける。

進路・学習部では、自己の将来を見通し夢や目標がもてる特別活動や総合的な学習での実践を強化していく。生活指導部では、現在及び将来の自己実現に向けて、生徒会活動や安全教育を充実させる。教務・道徳部では、生徒のよい点や進歩の状況を積極的に評価し、多面的・多角的に深く考えることができる学習形態を工夫する。